

事例研究論文の精読とディスカッションを用いた授業実践に関する一考察

学校臨床心理専攻・信原孝司

1. 授業の概要

臨床心理面接特論Ⅱは、前期の臨床心理面接特論Ⅰで学んだ力動的心理療法の基本を踏まえ、特に事例研究（心理面接ケースの研究）の視点から心理面接への理解を深めることを目的とした授業である。この科目は、臨床心理士資格の取得を目指す大学院生には必修の科目であり、後期から始まる心理教育相談室での内部実習（相談ケースの担当）とも密接に関連した授業の一つでもある。

2. 導入

授業では、昨年度における学生からの授業評価を参考にして授業内容・授業構成を作成している。

まず授業初回では、今後の授業予定を学生に周知徹底している。これによって学生は今後の見通しを持って授業に取り組み、事前に必要な分野を自学自習出来るようにする効果を期待している。

今年度は、以下の授業内容で実施した。

授業回	水曜日 3時限目
1	オリエンテーション，生い立ちと転移関係を考える
2	事例理解について
3	臨床心理事例1【不登校】
4	授業者からの補足1【不登校】
5	臨床心理事例2【神経症】
6	授業者からの補足2【神経症】
7	映画を通して臨床心理面接を考えるⅠ
8	ディスカッション
9	臨床心理事例3【パーソナリティ障害】
10	授業者からの補足3【パーソナリティ障害】
11	臨床心理事例4【心的外傷】
12	授業者からの補足4【心的外傷】
13	映画を通して臨床心理面接を考えるⅡ
14	ディスカッション
15	振り返り・レポート提出

3. 授業形式について

Ⅰ. 1回目，2回目の授業は，授業実施者（以下，授業者とする）が講義形式で行った。

Ⅱ. 臨床心理事例1～4

臨床心理事例1～4は，以下の形式で行った。(1)学生の希望に基づいて割り振った担当グループが，担当テーマ（例えば「神経症」等）に関する事例研究論文等を事前に読み込む。(2)そのテーマに応じた発表レジュメを作成する。(3)授業当日，担当グループが自分達の進行でレジュメに沿って発表し，履修者とディスカッションする。

また，担当グループには，発表の前週に履修者全員へ事例研究論文を配布しておくよう指示した。履修者はその論文を事前に読み込み，自分が考えたこと（ディスカッションしたいこと）を，A4用紙1枚にまとめて，次週の授業に臨んだ（レポートは授業終了時に授業者へ提出）。

事前配布の事例研究論文は，日本心理臨床学会が公刊する学術雑誌『心理臨床学研究』から，言語面接かつ力動的（深層心理的）アプローチの1つを，担当グループが選ぶこととした。当日は事例理解のための情報や研究考察の観点，自分達の事例理解などをレジュメで提示し，履修者とのディスカッションを通して事例理解を深めた。

Ⅲ. 授業者からの補足1～4

授業者からの補足では，臨床心理事例での担当者グループの発表やディスカッション内容を踏まえて，授業者が講義形式とディスカッション形式で授業を行った。また，授業者が選んだ事例論文を配布する場合は（毎回ではない），臨床心理事例の授業終了時，次週の臨床心理面接の授業時まで精読しておくように指示した。

4. 授業内容について

1回目，2回目の授業，臨床心理事例，授業者からの補足，映画で取り上げた主な授業内容は，次の通りであった。

I. 1回目, 2回目の授業

1回目は授業のオリエンテーションを兼ねて行った。今後の授業の進め方の説明の後、「生い立ちと転移関係を考える」と題した問い掛け等, 前期の臨床心理面接特論 I の復習も兼ねて, また後期授業の予定にも触れながら授業を進めた。

2回目は, 「事例研究と心理臨床」のテーマで授業者が講義しながら, ディスカッションを行い, 事例理解の大切さや意義等について理解を深めた。

II. 臨床心理事例

【不登校】

不登校に関わる事例研究論文の検討を中心として, 不登校の現状, スクールカウンセラーについて, 相談者の心理的内面等について, 理解を深めた。

【神経症】

神経症が主訴の事例研究論文の検討を中心として, その心理機制や, 神経症と生育歴との関連, 診断基準等について, 理解を深めた。

【パーソナリティ障害】

事例研究論文では境界性パーソナリティ障害に関する内容を取り上げ, パーソナリティ障害の定義, 各種のパーソナリティ障害について, 心理療法による援助等について, 理解を深めた。

【心的外傷】

心的外傷に関する事例研究論文を取り上げ, PTSD概念について, その歴史の変遷, 診断基準, 主な症状, 治療技法について等, 理解を深めた。

III. 授業者からの補足

授業者からの補足では, 特に, 臨床心理事例での発表で取り上げられなかった, あるいは希薄であった領域を中心に取り上げた。具体的には次の通り。

【不登校】

不登校概念の定義, 不登校概念の歴史の変遷, 不登校のタイプ例, 不登校の経過例を取り上げた。また, 登校刺激について問題を提議し, 講義とディスカッションを通して理解を深めた。

【神経症】

DSM (米国の診断基準) と神経症概念の変遷について, 神経症と心理的防衛機制について等, 講義とディスカッションを行い, 理解を深めた。

【パーソナリティ障害】

授業者から配布した, 青年期境界性パーソナリティ障害の事例研究論文を取り上げ, 心理療法, 理解と対応, 境界性パーソナリティ障害概念について, 境界性パーソナリティ障害の理解モデルについて, 講義とディスカッションを行い, 理解を深めた。

【心的外傷】

PTSD概念について, その症状, 歴史の変遷につい

て, 児童虐待について, 心理的防衛機制としての解離について, PTSDへの対応について, 講義とディスカッションを行い, 理解を深めた。

III. 映画

映画は『Another Woman』(邦題『私の中のもう一人の私』)と『Smultronstället』(邦題『野いちご』)を取り上げ, 視聴とディスカッションを行った。また, レポートでは以下の課題を指示した。

『Another Woman』(邦題『私の中のもう一人の私』)

(1) 映画の感想

(2) マリオンの人生を踏まえ, 彼女の対人関係のあり方の変化について, 臨床心理学的に考察せよ。

(3) あなた独自の視点から映画を臨床心理学的に論考せよ。

『Smultronstället』(邦題『野いちご』)

(1) 映画の感想

(2) イサク教授のそれまでの人生を踏まえ, 映画の中での彼の心理的な変化, 対人関係の変化について, 臨床心理学的に考察せよ。

(3) あなた独自の視点から映画を臨床心理学的に論考せよ。

5. 授業を振り返って

学生かが提出したレポート中の授業評価を中心に, 授業を以下に振り返った。

学生からのコメントでは, 心理臨床実践の事例研究論文に数多く触れる機会を持って有意義であった, とのコメントが多かった。その一方で, 担当グループでの発表時に時間が足りなかった(多くを盛り込み過ぎた)とのコメントもあった。

授業者として履修者の視点に立つと, 授業内で取り上げる内容の精査を行い, おおよその時間配分を事前に指示おくことを, 次回以降反映させたい。

授業形態では, 授業者からの講義, 担当グループの発表と授業者からの補足講義をセットにし, 心理臨床課題を考える映画の視聴とディスカッションという全体構成には支持は多かったので, 来年度もこの授業形態を継続したい。

授業内容はバラエティに富んだが, 履修者の自学自習もあって, 授業進行はスムーズであった。ただ, これは年度によって(履修者の組み合わせによって)異なる部分があるが, ディスカッションが十分でなかった部分があった。小グループでのディスカッションの導入を検討する等, 履修者の積極的な授業参加となるような工夫を今後考えたい(ディスカッションで多様な意見を知ることが出来たことは, 履修者から多く評価された)。